

母親の子育て意識と育児環境

— 鹿児島県名瀬市（奄美大島）における保育所通園児の母親を対象にした調査報告 —

坪井 敏 純

子どもを育てる環境が大きく変化し、その中で子育て支援のあり方が問われている。1994年に策定された「エンゼルプラン」に代表される子育て福祉の見直しによって、保育所は大きな保育改革を迫られてきている。

鹿児島県では過疎地の割合がかなり高く、奄美諸島や大隈諸島など多くの離島を持つという特徴から、全国的な、あるいはいわゆる都会とは異なった育児ニーズが存在すると考えられる。そこで今回は鹿児島県の奄美大島における母親の子育て意識と保育所を含む育児環境について、名瀬市の保育所に通う幼児の保護者を対象にして行った調査結果を報告する。

方 法

1. 調査対象

鹿児島県名瀬市に住む8保育所（公立5園，私立3園）に通園する幼児の保護者。回収数は526世帯（回収率80.0%）

2. 調査期間

1998年10月

3. 調査方法

アンケート調査用紙を保育所の職員が直接保護者に手渡し，2週間後に保護者が保育所に持参した。通園児が複数でも，各世帯ごとに調査用紙は1部配付した。

4. 調査内容

調査項目は以下の通りである。詳細な内容は資料に掲載した。

- ① 回答者
- ② 回答者の年齢
- ③ 家族構成
- ④ 子どもの数
- ⑤ 保育園に通っている子どもの数
- ⑥ 回答者の出身地

- ⑦ 回答者の就労形態
- ⑧ 働く理由
- ⑨ 生活上の悩みや不安
- ⑩ 育児に関する意識
- ⑪ 子育てをしやすくするための環境整備
- ⑫ 子育ての相談相手
- ⑬ 保育所への要望
- ⑭ 父親の家事や育児への協力に対する満足度

結 果

1. 全回答者について

回答者数 表1に回答者の内訳を示した。父親が回答したケースには、母親の代わりに記入した場合と父子家庭の場合が含まれている。

回答者の年齢と家族構成 表2は回答者の年齢、表3は家族構成である。およそ60%が30歳代で、75%が核家族である。

2. 分析対象者について

回答者が母親以外のものについては回答数が少ないため分析から外し、今回は母親が回答したものだけを考察の対象とした。従って、父子家庭とその他の家族構成は今回の報告には含まれていない。以下の分析は全て回答者が母親だけ（総数495人）のものである。

家族構成 (表3) 75%は核家族である。

年齢 (表4) 回答した保育所児の母親は60%が30歳代、30%が20歳代で、30歳代が20歳代の2倍近くに及んでいる。

母親の年齢を家族構成ごとに見ると、母子家庭では、親族と同居している場合、20歳代の割合が30歳代の割合よりも多く、他の家族構成とは異なる傾向が見られる。

子どもの数と通園児数 子どもの人数は平均すると2人を越え(表5)、保育所への通園児は30%近くが2人以上いることは、保育所が育児に大きな役割を果たしているといっていよう。

表1 回答者数

回 答 者	人 数
母 親	495
父 親	24
そ の 他	5
不 明	2
合 計	526

表2 回答者の年齢と人数

年 齢	人 数
10 歳 代	4
20 歳 代	144
30 歳 代	305
40 歳 代	64
50 歳 代	7

表3 家族構成と件数

家 族 構 成	回 答 者	
	全 回 答 者	母 親
夫 婦 と 子 ども	393	377
夫 婦 と 子 ども と 親 族	42	39
片 親 と 子 ども	44	41
片 親 と 子 ども と 親 族	36	30
そ の 他	11	8

表4 回答者の年齢及び家族構成の割合

年 齢	全 体 (%)	家 族 構 成 () は 人 数			
		夫 婦 と 子 ど も (377)	夫 婦 と 子 ど も と 親 族 (39)	母 親 と 子 ど も (41)	母 親 と 子 ど も と 親 族 (30)
10歳代	0.8	0.5	2.6	2.4	0
20歳代	27.9	25.5	33.3	24.4	60.0
30歳代	58.8	61.0	48.7	61.0	36.7
40歳代	12.1	12.5	15.4	12.2	3.3
50歳代以上	0.4	0.5	0	0	0
	100%	100%	100%	100%	100%

表5 1世帯の子どもの人数と通園児の割合

子どもの数	一世帯の子どもの 割合 (%)	通園児 (%)	家 族 構 成 () は 人 数			
			夫 婦 と 子 ど も (377)	夫 婦 と 子 ど も と 親 族 (39)	母 親 と 子 ど も (41)	母 親 と 子 ど も と 親 族 (30)
1 人	24.2	67.7	23.3	5.1	41.5	36.7
2 人	41.8	29.1	42.7	46.2	22.0	50.0
3 人	22.4	2.1	23.1	30.8	22.0	10.0
4 人	7.7	1.2	7.4	12.8	9.8	3.3
5 人 以上	3.8		3.4	5.1	4.9	0
	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表6 1世帯の子どもの数と出身地

子どもの数	出 身 地		
	大 島	県 内	県 外
1 人	24.0	28.6	22.0
2 人	41.3	40.8	45.8
3 人	23.3	24.5	15.3
4 人	8.0	4.1	8.5
5 人 以上	3.4	2.0	8.5
	100%	100%	100%

出身地と子どもの数 表6は母親の出身地ごとに、1世帯の子どもの数を示したものである。出身地による違いは特に見当たらない。

出身地と年齢 表7に、母親の出身地と年齢の関係を示した。約80%が奄美大島本島の出身である。県外と大島以外の出身者はほぼ同じ割合となっている。

特徴的なことは、20歳代では、県外出身者の40%が保育所を利用しているのに対して、大島出身者では、27%、県内出身者では18.4%とおおよそ半数程度である。20歳代で県外出身者が保育所を利用する割合が高い理由は、表8の家族構成で見られるように、母子家庭の割合が高い点と、就労形態では家族従

表7 保護者の出身地と年齢

保護者の出身地	全体の割合 (495人)	母親の年齢					
		10代	20代	30代	40代	50代	
鹿児島 県外	11.9	3.4	40.7	47.5	8.5	0	100%
鹿児島 県内：大島本島	78.2	0.5	27.1	59.4	12.4	0.5	100%
鹿児島 県内：大島以外	9.9		18.4	67.3	14.3	0	100%

表8 家族構成と出身地

家族構成	全体	出身地					
		大島		県内		県外	
		実数	%	実数	%	実数	%
夫婦と子ども	76.2	295	76.6	43	87.8	39	66.0
夫婦と子どもと親族	7.9	25	6.5	2	4.1	12	20.3
夫婦と子どもと非親族	0.4	2	0.5	0	0	0	0
母親または父親と、子ども	8.3	37	9.6	3	6.1	1	1.7
母親または父親と、子どもと親族	6.1	23	6.0	1	2.0	6	10.2
母親または父親と、子どもと非親族	0.4	2	0.5	0	0	0	0
その他	0.7	3	0.8	0	0	1	1.7
	100%	385	100%	49	100%	59	100%

業が比較的多いことが影響しているのではないかと推測される。

家族構成と出身地（表8）全体としては核家族が四分之三を占め、親族との同居は15%弱である。核家族の割合が最も高いのは県内出身者であり、親族との同居も最も少ない。親族との同居が最も多い割合を示しているのが、県外出身者であり、核家族の割合が最も少ない。このような違いの原因は明確ではないが、県内出身の場合は転居地や仕事場が同居しにくい場所になりやすいケースが考えられる。

県外出身者の家族の場合に親族との同居が多い原因として、就労形態が家族従業や自営業の多いことが考えられる。つまり親の事業を手伝う、あるいは引き継ぐなど、大島に転居した際に同居が前提になっているケースが多いのではないかと考えられる。

就労形態 表9は母親の就労形態について、その出身地別、年齢別でまとめたものである。全体的には、常勤とパートタイム勤務は40%前後でほぼ同率であるが、出身地別では県内出身者の常勤が70%を超え大島出身者の2倍近くになっている。県外出身者を見ると常勤が最も少なく、パートタイムや家族従業が比較的多い傾向にある。このような就労形態の違いが出身地によってなぜ異なるのかは明らかではないが、子育て環境への要望や保育所に対する期待が出身地によって異なる要因の一つになっているかもしれない。

年齢別では20歳代と30歳代以降では常勤とパートの割合が異なり、20歳代ではパートが50%を超え、常勤は30%に留まっているが、逆に30歳代では常勤がパートを上回る。これは年齢による育児意識の違いがあったとしても、就労形態との関係を見無視することはできないものと考えられる。

家族構成で見ると、夫婦と子ども（親族との同居を含む）と母子家庭（親族との同居を含む）を比較

表9 保護者（母親）の出身地別の就労形態の割合 ()は実数

就 労 形 態	全 体	出 身 地			年 代 別				家 族 構 成	
		大 島 (385)	県 内 (49)	県 外 (59)	10 代 (4)	20 代 (138)	30 代 (289)	40 代 (60)	夫婦と 子ども (416)	母親と 子ども (73)
常勤の勤務	37.9	36.1	71.4	22.0	25	30.4	42.2	35.0	38.5	34.2
パートタイム勤務	41.6	43.9	12.2	50.8	25	55.1	36.0	40.0	40.1	50.7
自営業	4.9	3.6	10.2	8.5	50	0	0	0	5.5	1.4
自由業	0.4	0	0.5	0	0	0	0	0	0.2	0
家族従業	10.8	10.6	4.1	16.9	0	8.7	12.1	6.7	10.8	11.0
内職	1.6	1.8	2.0	0	0	0.7	1.7	3.3	1.7	1.4
無職	2.8	3.4	0	1.7	0	3.6	3.1	0	2.9	1.4
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

すると母子家庭ではパートの割合が多い。これも母子家庭と夫婦の家庭の育児意識の差異には就労形態の影響を考慮しておく必要がある。

働く理由 表10は仕事をしている母親の働く理由を、全体と年齢別に分類したものである。総理府の資料は働く20歳以上の女性が回答した割合を示している。したがって、子どもを持っていない、あるいは保育所を利用していないケースが多く含まれているため、直接的な比較はできないが、参考として記載した。

働く理由の最も大きなものは、「家計の足しにするため」であり、これに続いて「生計を維持するため」が上げられている。このような経済的理由をトータルで見ると、どの年代も違いは無い。しかし20代から40代と年齢が上がるにつれて、仕事の社会的、心理的な側面を重視する「視野を広げたり、友人を得るため」、「自分の能力・技術・資格を生かすため」、「生きがいを得るため」などの回答が増加していく。これは表9で見られるように、20代ではパートタイム勤務が50%を超え、常勤が30%であったのが、30代では常勤の割合が42.2%と増加しており、パートでは得られない社会的・心理的側面が常勤では増加する一つの原因かもしれない。ただし20代と30代では社会的状況はかなり異なっており、就労形態に影響を与える要素にもなっているかもしれない。

日常の不安や悩み 表11は、日頃の生活上、不安や悩みの有無を問うものである。さらに表12はその悩みの内容を（複数選択）調べたものである。自営業は調査数が少ないので参考の意味で記載し、特に分析の対象とはしなかった。

就労形態と悩みの内容についての関連でみると、パートは「今後の生活費や資産の見通し」「現在の収入や資産」など経済的な側面と「自分の生活について（教育、就労、結婚など）」などの自分自身の問題が他の就労形態と比べ高い傾向がある。常勤の場合は「勤務先での人間関係」はパートと常勤を比べれば、2倍になっている。最も特徴的なものは、常勤の場合は経済的な不安はあまりなく、「子育てと仕事等の両立」に対する不安はパートと比べると2倍になっている点である。

表10 働く理由 () は実数 (%)

働 く 理 由	総理府 ^{注1}	本研究	20代 (134)	30代 (280)	40代 (60)
家計費の足しにするため	41.4	66.7	73.1	64.3	78.3
生計を維持するため	33.7	53.1	49.3	57.1	55.0
将来に備えて貯蓄するため	33.7	38.2	42.5	38.6	35.0
視野を広げたり、友人を得るため	30.3	33.3	24.6	38.2	40.0
仕事をするのが好きだから	23.2	27.3	26.1	28.2	31.7
自分の能力・技術・資格をいかすため	21.2	26.1	15.7	31.1	31.7
生きがいを得るため	31.1	22.8	12.7	27.5	26.7
自分で自由に使えるお金を得るため	36.3	18.8	15.7	18.9	28.3
いったん退職すると、今と同じ条件での再就職が難しいから	3.8	14.3	12.7	16.8	11.7
働くのがあたりまえだから	20.3	11.9	10.4	13.9	8.3
家業であるから	22.2	10.1	6.7	12.1	11.7
社会に貢献するため	6.7	6.3	1.5	7.9	10.0
時間的に余裕があるから	18.6	3.8	1.5	5.0	5.0
回りの人が働いているから	2.3	1.4	1.5	1.8	0
その他	1.3	2.2	3.0	2.5	0
特に理由はない	0.6	0.4	0	0.4	1.7
わからない	0.9	0	0	0	0
不明	0	3.0	0	0	0

注1：平成3年 内閣総理大臣官房広報室「女性の暮らしと仕事に関する世論調査」

表11 日常の不安や悩みの有無 (%)

悩みや不安を感じている	70.5
わからない・どちらとも言えない	20.6
悩みや不安を感じていない	8.7

2. 子育てのために必要な環境

表13は子育ての環境を良くするための制度や環境に関して改善を望む点について質問をした結果である(4つまでの複数回答)。育児に関わる費用の補助が最も高いが、育児休業や労働時間など労働条件への要望とほぼ同じ割合で保育所の充実が上げられている。他の調査を参考として記載したが、選択数や選択項目が異なるため直接的な比較はできないが、経済企画庁の調査とかなり類似している。「育児手当の充実」に大きな差があるが、これは経済企画庁の「出産費用の補助」の割合が非常に高い点を合わせて考えると、出産や子育てに関わる費用という共通した面が重視されていると考えられる。育児環境の改善に関しては、生活環境や就労形態との関係を調べる必要がある。保育白書の資料は、選択項目が本研究と異なる部分が多く比較しにくいだが、特に労働条件に関する選択肢に回答率が高く、重視されているように見える。

年齢と改善要望 表14は子育て環境の改善について、年齢ごとにまとめたものである。どの年代も最

表12 感じている不安や悩みの内容

悩 み や 不 安 の 内 容	全 体 (348)	就 労 形 態 () は 実 数			
		常 勤 (137)	パ ー ト (138)	家 族 従 業 (37)	自 営 業 (17)
自分の健康について	22.1	19.7	21.7	13.5	47.1
家族の健康について	57.2	34.3	44.2	37.8	47.1
老後の生活設計について	39.9	16.1	14.5	18.9	29.4
今後の生活費や資産の見通しについて	40.6	32.1	63.8	40.5	35.3
家族の生活について（育児，教育，進学，就職，結婚など）	16.7	54.0	59.4	56.8	41.2
家業や事業の経営について	12.1	2.9	2.2	67.6	52.9
自分の生活について（教育，就職，結婚など）	12.1	9.5	17.4	5.4	0
現在の収入や資産について	26.1	15.3	36.2	24.3	29.4
近隣・地域の間人関係について	4.0	2.2	5.1	5.4	11.8
家族・親族間の間人関係について	22.1	20.4	24.6	29.7	11.8
勤務先での仕事や人間関係について	20.4	31.4	16.7	8.1	11.8
子育てと仕事等の両立	46.6	69.3	35.5	24.3	35.3
住んでいる場所や地域の環境について	8.6	6.6	10.1	10.8	11.8
その他	2.3	1.5	3.6	2.7	0

表13 子育ての環境改善

改 善 を 望 む 内 容	本 研 究	経 済 企 画 庁 (3 択)	大 阪 府 ^{注1}
育児手当の充実	48.7	25.8	
育児休業の充実	38.4	46.7	41.0
労働時間の短縮（自分の，あるいは夫の）	38.0	31.9	23.4
保育所の充実	34.1	27.5	51.7
夫の応分な家事負担	23.4	22.0	
公共施設内の託児室の設置や充実	22.8		
父親が子育てできるような勤務体制	19.0		
職場の保育施設を設置あるいは充実	18.8		21.9
出産費用の補助	17.4	33.0	
近隣同士で，子育てを助け合うような関係	13.7	23.6	
住宅や生活環境の改善	16.2		
近隣の自然環境の改善	11.9	9.3	
子育ての相談機関の充実	11.7		
ベビーシッターの普及	6.3	4.6	5.0
出産・育児情報を得やすく	6.1		
その他	3.0		7.0
わからない	2.8		
無回答	2.2		

注1：保育白書（91年）に記載されている保育所に子どもを預けている保護者のデータを記載した。

も多い要望は「育児手当の充実」である。特に20代は50%を超え、第2位の「育児休業の充実」とかなりの差がある。経済的な側面が重視されていると言える。20代では労働条件の改善が上位に上げられている。

「育児手当の充実」が1位になるのは40代でも見られるが、「育児手当の充実」を除くと、その要望事項は20代とは異なり、40代では多岐に渡る傾向がある。

30代は「育児手当の充実」が1位になってはいるが、それに匹敵して労働条件の改善、例えば「育児休業の充実」「労働時間の短縮」などが強い要望として上げられている。

年齢によって就労形態が異なるため、この結果を分析するには単に年齢だけが影響を与えていると結論することはできない。

家族構成と子育て環境の改善 表15は子育て環境の改善に対する要望を、家族構成別に示したものである。

育児手当の充実はどの家族構成でも第1位となっている。両親がそろっている家庭では、核家族（夫婦と子）と、親族が同居（夫婦と子どもと親族）している家庭を比べると、「夫の応分な家事分担」についての要望に違いがある。これはおそらく親族（祖父母など）との同居によって育児や家事を手伝える人がいるかどうかの影響しているものと考えられる。さらに「子育ての相談機関の充実」でも親族が相談相手になりやすいことを推測できる。

「育児休業の充実」に大きな違いが見られるが、母子家庭においては母親の就労形態は夫婦と子ども

表14 保護者の年齢と保育環境の改善

改善を望む内容	年齢（ ）は実数		
	20代 (134)	30代 (280)	40代 (60)
育児休業の充実	38.2	41.6	28.6
労働時間の短縮（自分の、あるいは夫の）	37.5	42.0	28.6
出産費用の補助	16.2	18.2	14.2
育児手当の充実	55.1	47.9	44.6
保育所の充実	29.4	37.4	35.7
職場の保育施設を設置あるいは充実	19.9	20.3	12.5
公共施設内の託児室の設置や充実	26.5	21.3	28.6
ベビーシッターの普及	2.9	7.3	8.9
近隣同士で、子育てを助け合うような関係	9.6	15.4	19.6
子育ての相談機関の充実	13.2	11.9	8.9
父親が子育てできるような勤務体制	22.8	17.5	19.6
夫の応分な家事負担	22.1	24.1	26.8
住宅や生活環境の改善	12.5	17.1	23.2
近隣の自然環境の改善	6.6	15.4	8.9
出産・育児情報を得やすく	8.8	5.9	1.8
その他	1.5	3.8	3.6

表15 家族構成と子育て環境の改善

改善を望む内容	子どもを含めた家族構成（ ）内は実数			
	夫婦と子ども (371)	夫婦と子ども と親族 (38)	母親と子ども (40)	母親と子ども と親族 (27)
育児手当の充実	50.1	42.1	57.5	48.1
育児休業の充実	42.0	28.9	25.0	40.7
労働時間の短縮（自分の、あるいは夫の）	41.0	42.1	27.5	33.3
保育所の充実	34.8	42.1	27.5	37.0
夫の応分な家事負担	28.6	18.4	0	0
公共施設内の託児室の設置や充実	22.1	26.3	25.0	33.3
父親が子育てのできるような勤務体制	21.6	18.4	0	0
出産費用の補助	19.1	15.8	12.5	7.4
職場の保育施設を設置あるいは充実	19.1	13.2	27.5	14.8
住宅や生活環境の改善	15.6	21.1	17.5	25.9
近隣同士で、子育てを助け合うような関係	15.1	15.8	7.5	7.4
近隣の自然環境の改善	12.9	10.5	10.0	7.4
子育ての相談機関の充実	11.1	5.3	22.5	11.1
ベビーシッターの普及	6.5	2.6	7.5	7.4
出産・育児情報を得やすく	6.2	5.3	5.0	7.4
その他	3.1	2.6	5.0	3.7
わからない	2.9	5.3	10.0	3.7

の家庭と違いはなく、やはり家計を支えるためには育児休業を取ることが難しいためであろう。

母子家庭の場合では、親族との同居が直接影響すると推測されるものとして、「育児手当の充実」に差がある点が上げられる。これは育児や家事を手伝える人が身近にいるかどうか、経済的な援助が同居によって可能になるなどの要因であろう。さらに「子育ての相談機関の充実」には大きな差が出ており、やはり親族が子育ての相談相手になりやすいことがいえるであろう。「育児休業の充実」では両親がそろっている家庭と逆の結果が出ており、これも就労形態との関係があるかもしれない。

夫婦と子ども場合と片親だけの家庭とを比べると、「労働時間の短縮」に差がある。これは家計を維持する者が母親だけの場合、経済的な不利益を受ける可能性があるものについては、かなり慎重にならざるを得ない。また「子育ての相談機関の充実」は片親の場合のほうが明らかに高く、「近隣同士で、子育てを助け合うような関係」の回答率が少ない点を考え合わせると、身近に専門的な相談機関の必要性を望んでいるが、近所同士で助け合うような人間関係は望んでいないのではないかと。これが逆に孤立化に向かわせる原因にもなりかねない。

就労形態別改善要望 表16で就労形態別にみると、常勤やパートのように外部に勤務する母親は、家業従事者と比べ、育児休業制度の充実や職場の保育施設を望む人が多いのは当然である。また常勤では職場の保育施設の設置や充実が1/4もある。

常勤の場合パートと比べ、父親の勤務体制や家事分担は母親の切実な願いとなっている。家業従事の

表16 就労形態別に見た子育て環境の改善

改善を望む内容	就労形態 () は実数		
	常勤 (158)	パート (199)	家業 (51)
育児休業の充実	46.5	44.7	15.7
労働時間の短縮(自分の,あるいは夫の)	54.6	27.1	37.3
出産費用の補助	14.6	21.6	19.6
育児手当の充実	49.2	52.3	47.1
保育所の充実	35.7	34.2	37.3
職場の保育施設を設置あるいは充実	24.9	18.6	5.9
公共施設内の託児室の設置や充実	22.7	24.1	27.5
ベビーシッターの普及	8.6	2.5	5.9
近隣同士で,子育てを助け合うような関係	12.4	13.1	7.8
子育ての相談機関の充実	6.5	14.6	13.7
父親が子育てできるような勤務体制	23.8	16.1	13.7
夫の応分な家事負担	28.1	19.6	33.3
住宅や生活環境の改善	8.6	22.1	19.6
近隣の自然環境の改善	11.4	10.1	7.8
出産・育児情報を得やすく	2.7	6.0	11.8
その他	3.2	2.5	3.9
わからない	0	4.9	5.9

場合は家事分担の要望が高く、母親だけに家事や育児の負担がかかっていると推測される。また夫の勤務体制よりも本人の労働時間の長さも影響しているのではないかと推測される。

「子育ての相談機関の充実」では、常勤の母親が最も要望が少ない。子育ての情報が入りやすいのか、あるいは相談しやすい人が近くにいないのか、その理由ははっきりしない。また「出産・育児情報を得やすく」は常勤が最も少ない。パートや家業は常勤と比べ子育てに関する情報や相談相手が得にくいことが推測される。ところが、表19から相談相手として保育士を選ぶ割合は常勤が最も高く、情報源としての保育所の利用は就労形態によって異なる可能性がある。

保育所の充実は就労形態とは関わりなく3割が望んでおり、直接的な幼児の育児を支援する役割は家族構成や就労形態に関わりなく重要と言える。

3. 相談相手

表17は、子育てで困った時などがある時、誰に相談するかを尋ねた結果である(4つまでの複数回答)。知人・友人が最も多く選択され、続いてほぼ同じ割合で夫と答えている。そのあと祖父母に続いて、40%が保育士を相談相手として選んでおり、保育士の役割は大きいといえる。

類似の調査を表17に記載した。それぞれの調査が対象者や選択数、あるいは選択肢が異なっており比較することは難しいが、相談相手として夫と知人・友人の割合がいずれも高く、ほぼ半数の回答者が両

表17 子育ての相談相手

相 談 相 手	本研究 (4 択)	児童環境 調査 ^{注1}	大阪府 ^{注2}	鹿児島市 ^{注3}	岐阜市 ^{注4} (2 択)
相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い	19.6	23.9			
夫	68.9	72.2	64.7		
あなた又は夫の両親（祖父母）	54.7			69.7	48.4
親戚の人（祖父母以外）	20.8		42.2		
保育所の保育士	40.6	30.5	17.4	11.5	40.1
友人・知人	72.5	59.8	42.4	56.9	67.1
かかりつけの医師	11.1	9.1	4.2		
保健所の保健婦	2.6				
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	6.7		1.6		
育児書・育児雑誌などの図書	24.0				
家庭教育に関する学級・講演・講座	5.1				
特に何もしない	1.4				
その他	1.6				
無回答	0.8				

注1. 厚生省児童家庭局（平成3年）

注2. 保育白書 91年から引用

注3. 鹿児島市子育て支援計画（平成10年）

注4. 岐阜市とソウル市の子育てに関する調査（平成10年）

親を相談相手に選んでいる。上位にあげられる相談相手は、選択される割合に違いはあるものの、夫、友人・知人、両親が選ばれている。問題は選択数が少なく制限されると、子育て支援の制度あるいは環境として必要な下位の情報源や相談相手が表に出てこない恐れがある。その点で保育士をみると、本研究、児童環境調査、保育白書は保育士を4番目に選択しており、鹿児島市や岐阜市の調査では夫が選択肢に無い点を考え合わせるとやはり保育士は4番目の相談相手あるいは情報源となる可能性が高い。また選択数が少ない場合、保育士や育児書・育児雑誌などの影響力を見落とす可能性があるといえよう。

出身別の相談相手（表18）出身地別に相談相手の特徴を調べると、大島出身の場合は「友人・知人」が最も多く、続いて10%程度下がって夫、さらに10%下がって祖父母の順になっている。県内出身者は、圧倒的に夫が選ばれており、20%下がって友人・知人と祖父母がほぼ同率で選択されている。県外では、夫と友人知人がほとんど同率で選択されており、続いて祖父母になっている。

大島出身者の場合、地元であり友人・知人の数は多い。そのため相談者として一番選択されやすい。大島出身ではない場合、友人・知人を相談相手として選ぶ割合は出身者より少ないが、県内出身者はそれを補う形で、夫や両親を選択することになるが、圧倒的に夫を選択している点の特徴である。

県外出身者は、県内出身者と同様、友人・知人は大島出身者よりも少なく、また県内出身者よりも本人の両親とは接触しにくい状況があることから、夫の選択率が高くなるのではないかと予想されたが、県内出身者よりも低い結果が現れた。この点は表7で示された通り、県外出身者は、その他の出身者と比べ20歳代が多く、県内出身者の2倍を越えている。そして表22の年齢と相談相手の表から、20代の母

表18 出身地別の相談相手善

相 談 相 手	出身地 () は実数		
	大 島 (384)	県 内 (49)	県 外 (58)
相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い	20.3	14.3	20.7
夫	67.7	83.7	69.0
あなた又は夫の両親(祖父母)	55.5	61.2	48.3
親戚の人(祖父母以外)	21.4	8.2	29.3
保育所の保育士	40.1	49.0	39.7
友人・知人	75.8	59.2	67.2
かかりつけの医師	11.5	8.2	12.1
保健所の保健婦	2.1	6.1	3.4
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	28.6	24.1	24.0
家庭教育に関する学級・講演・講座	4.7	10.2	3.4
特に何もしない	1.6	0	1.7
その他	1.6	0	3.4

親は30代の母親よりも夫を相談相手にする割合が少ないことから、出身地の問題ではなく母親の年齢がこのような結果を生み出している可能性がある。さらに県外出身者は予想に反して親戚の人(祖父母以外)を30%近く選択している点は注目される。ただ大島出身者とはあまり変わらない割合であり、県内出身者と比較すると大きな差がある。この原因については明らかではない。例えば、就業形態が県内出身者より、パートが多い、自営業や家事従業といった就労形態が他の出身者より多い、20代の割合が高い、などの特徴が何らかの影響を及ぼしているのではないかと考えられる。単に、同じ体験を持つ親戚(本人の兄弟姉妹も含まれるが)が相談相手に選択されやすいのであれば、県内出身者も同じ条件であり、表19では家族従業者は親戚を選ぶ割合が低く、パートが高いことから、パートという就労形態との関連が考えられるが、この結果だけでは十分に説明できない。

保育士を選択した割合は県内出身者が最も高いが、この理由は就労形態で相談相手を分類すると(表19)、常勤者が保育士を相談相手にする割合が高く、県内出身者の70%(表9)が常勤であることから、出身地が原因ではなく就労形態が影響していることが考えられる。

就業形態と相談相手

表19は就労形態と子育ての相談相手の関連を表したものである。自営業はデータが少なく分析の対象とはしなかったが、参考資料として掲載した。就業形態の相談相手との関連を見ると、パートで夫を選ぶ割合が少ない。パートでやや自分だけで解決する傾向が見られる(25.0%)。両親を選ぶ割合はどの就業形態とも変わらず、友人・知人の選択率も違いは無い。パートでは、親戚に相談する割合がやや高く、保育士はやや低い。育児雑誌や育児書から情報を得ることも比較的少ない結果が出ている。

相談相手は出身地とも関連があるため、表20に常勤の母親が選ぶ相談相手を示した(県内出身者は分析するにはパートが少な過ぎて、比較できないため常勤だけを取り上げた)。県外出身者は件数が少ないため分析の対象から外した。明らかに夫を選択する割合と保育士を選択する割合は、県内出身者が高

い。特徴的なことは、夫を相談相手にする割合が、大島出身者全体では67.7%であったものが、常勤だけに絞ると70.3%に上昇する。相談相手としての夫への期待は、常勤で共働きの家庭で最も大きいといえる。

家族構成と相談相手 表21では、家族構成と子育てに関する相談相手や情報源の関係を示した。いずれの家族構成でも、友人・知人は一番に選択されており、同世代からの情報が最も役立つことが分かる。

表19 就業形態と相談相手（4択）

相 談 相 手	常 勤 (186)	パ ー ト (204)	家族従業 (52)	自 営 業 (24)
相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い	17.7	25.0	15.4	12.5
夫	72.6	64.7	75.0	87.5
あなた又は夫の両親（祖父母）	57.0	55.9	55.8	33.3
親戚の人（祖父母以外）	19.9	24.0	15.4	20.8
保育所の保育士	46.8	35.8	38.5	37.5
友人・知人	72.0	73.0	69.2	75.0
かかりつけの医師	11.8	9.3	9.6	20.8
保健所の保健婦	3.2	2.0	5.8	0
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	7.5	5.9	7.7	8.3
育児書・育児雑誌などの図書	28.5	18.1	30.8	25.0
家庭教育に関する学級・講演・講座	3.8	4.4	5.8	16.7
特に何もしない	1.1	1.5	0	0
その他	2.2	1.5	1.9	0

表20 母親の就労形態が常勤の場合の相談相手

相 談 相 手	出 身 地		
	大 島	県 内	県 外
相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い	18.8	14.3	15.4
夫	70.3	85.7	61.5
あなた又は夫の両親（祖父母）	58.0	60.0	38.5
親戚の人（祖父母以外）	21.0	5.7	46.2
保育所の保育士	43.5	60.0	46.2
友人・知人	78.3	57.1	46.2
かかりつけの医師	11.6	11.4	15.4
保健所の保健婦	2.2	8.6	0
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	7.2	5.7	15.2
育児書・育児雑誌などの図書	26.8	31.4	38.5
家庭教育に関する学級・講演・講座	3.6	5.7	0
特に何もしない	1.4	0	0
その他	2.2	0	7.7

母子家庭と夫婦と子どもの家庭を比較すると、「相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い」は、片親の場合が2～3倍と高く50%近くになっており、いわゆる孤立化する傾向が見られる。母子家庭でも親族と同居している母親にとって、相談相手として両親はかなり重要な位置を占めるが(51.7%)、親族と同居していない母子家庭の場合は両親(祖父母)が相談相手となりにくい(36.6%)。しかも保育士が相談相手として必ずしも選ばれていないと言う点に注目する必要がある。母子家庭の場合、「相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い」は40%～50%も選択されているが、この割合は「保育士」を選択する割合(40%弱)よりもかなり多い。

これは子育て支援の中心的役割を担おうとする保育所が、改革を進める中で保育士が保護者とのような連携を取っていくかを考える必要がある。

母親の年齢と相談相手(表22) 20代の相談相手は、子どもの年齢も低いことから、両親を選択する割合が高く、その経験がかなり有効になっている。また20代は、かかりつけの医師を選択する割合が30代よりかなり高く、いわば育児の初心者としての夫は20代では30代の選択率よりも少ないことから、子どもが幼ければ幼いほど実際の経験や専門的知識によるアドバイスが必要といえる。

保育所への要望

表23に保育所への要望の有無を示したが、およそ70%が何らかの要望を上げている。20%は要望が特に無いと回答しているが、この割合をどう評価するかは難しい。

表24に選択した要望事項の割合を示した。また類似した研究の結果を参考に記載している。ただし結果の比較は対象者が異なる点、選択項目の違いや選択数の違いがあり直接に比較はできない。

本研究では6項目の複数選択であったが、保育料の軽減がトップに上げられている。これは他の研究結果と類似した結果である。「保育料を税金の控除対象に」が次に高い選択率であるが保育所そのもの

表21 家族構成と相談相手

相 談 相 手	家 族 構 成 () は 実 数			
	夫婦と子ども (374)	夫婦と子ども と親族 (39)	母親と子ども (41)	母親と子ども と親族 (29)
相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い	13.6	20.5	53.7	44.8
夫	81.6	76.9		
あなた又は夫の両親(祖父母)	59.1	48.7	36.6	51.7
親戚の人(祖父母以外)	19.0	25.6	22.0	34.5
保育所の保育士	40.1	51.3	36.6	37.9
友人・知人	73.3	69.2	73.2	75.9
かかりつけの医師	10.4	12.8	19.5	10.3
保健所の保健婦	2.1	2.6	9.8	0
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	7.0	2.6	9.8	6.9
育児書・育児雑誌などの図書	24.1	23.1	24.4	27.6
家庭教育に関する学級・講演・講座	4.8	5.1	4.9	6.9
特に何もしない	1.1	0	0	0
その他	1.9	0	0	3.4

表22 年齢と相談相手

相 談 相 手	年 齢 () は実数		
	20 代 (138)	30 代 (287)	40 代 (60)
相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い	19.6	19.5	23.3
夫	62.3	72.1	71.7
あなた又は夫の両親（祖父母）	70.3	50.5	41.7
親戚の人（祖父母以外）	22.5	20.6	20.0
保育所の保育士	37.0	42.9	40.0
友人・知人	76.1	73.2	68.3
かかりつけの医師	17.4	8.7	6.7
保健所の保健婦	0.7	2.8	6.7
テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー	3.6	7.0	13.3
育児書・育児雑誌などの図書	23.9	25.4	18.3
家庭教育に関する学級・講演・講座	2.2	3.8	18.3
特に何もしない	0	1.7	3.3
その他	1.4	1.4	1.7

表23 保育所に対する要望の有無 () 内は実数手

あ	る	69.7% (345)
な	い	21.4% (106)
わ	か	ら
な	い	6.5% (32)
不	明	2.4% (12)

の役割的な面を見ると「子どもが軽い病気の時には預かってほしい (31.2%)」、「休日・祝日にも保育を (26.9%)」、「在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように (16.8%)」、「いつでも入れる (12.1%)」、「産休明けにも入れるように (11.6%)」となっている。この結果は現在保育所に通っている子どもを持つ母親の要望であり、保育所児を持たない母親の要望と異なる点があることは十分予測される。したがって、実際に子どもが通っている保育所への要望というとらえ方をしておかなければならない。

家族構成の違いによる保育所への要望 (表25) 夫婦と子どもの場合、保育料の軽減が最も多く、「保育料を税金の控除対象に」などの経済的負担軽減の要望が強い。また「働いていなくても預けられるように」は、特にいままで保育所に通わせていた子どもが、母親が休職したとたん保育所に行けなくなってしまうなどの問題があげられている。

経済的側面を除いて比較すると、最も大きな違いが保育時間や開所日に現れている。母子家庭の場合、閉所時間の延長、休日・祝日の開園、夜間の利用が要望としては多い。

共通して多いのが「子どもが軽い病気の時には預かってほしい」という要望である。特に母子家庭の場合は切実な問題となっている。また「保育所での子どもの様子をもっと教えてほしい」という要望はかなり高い。なお母親の年齢による要望の違いは特に無かった。

表24 保育所への要望事項

要 望 事 項	本 研 究 (6 択)	大 阪 府 ^{注1}
保育料を安く	67.6	52.2
入園の手続きを簡単に	32.4	25.8
産休明けにも入れるように	11.6	10.9
休日・祝日にも保育を	26.9	
保育料を税金の控除対象に	40.2	
いつでも入れるように	12.1	
子どもが軽い病気の時には預かってほしい	31.2	16.2
在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように	16.8	
育児相談や育児に関する情報を提供してほしい	7.8	
保育所の閉園時間をもっと遅く	10.7	16.0
保育所の開所時間をもっと早く	3.2	
保育所が近所にほしい	2.0	21.7
母親の苦勞を保育士さんがもっと理解を	4.9	
小学生を放課後、一定時間受入れてほしい	19.4	
入園定員を増加	3.2	
保育所の施設を改善	13.9	
保育の内容を充実	10.7	19.8
保育所での子どもの様子を教えてほしい	31.8	
働いてなくても預けられるように	22.8	
障害児の受入れ	4.6	
保育士の数を増やしてほしい	12.7	
夜間にも利用できるように	7.2	3.2
給食を改善	2.0	
保育所の保育や行事などで、保護者の負担を少なく	10.4	
就労希望者も入所を		13.6
親の事情に合わせた時間や日数で保育を		
職場内託児所		
その他	7.8	

注1：(大阪府下) 就労者で保育所に預けている母親。保育白書(91年)から引用

就業形態と保育所への要望(表26) 常勤の場合、保育料の高さがどうしても改善したい事項のトップにくる。また常勤では他の就業形態よりも、休みにくい状況や就業時間が遅いあるいは自由にならないなどの要因から、「子どもが軽い病気の時には預かってほしい」、「小学生を放課後、一定時間受入れてほしい」「保育所の閉園時間をもっと遅く」などの要望が多くなる。パートの場合、経済的な側面よりも入園や在園の手続きに多くの問題を抱えていると思われる。例えば「働いてなくても預けられるように(35.8%)」、「入園の手続きを簡単に(36.6%)」、「在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように(22.4%)」、「いつでも入れるように(17.4%)」などは、常勤よりも要望が高

表25 家族構成と保育所への要望

要 望 事 項	家 族 構 成 () は 実 数			
	夫婦と子ども (277)	夫婦と子ども と親族 (29)	母親と子ども (21)	母親と子ども と親族 (15)
保育料を安く	71.8	69.0	42.9	26.7
入園の手続きを簡単に	32.1	55.2	28.6	6.7
産休明けにも入れるように	11.6	10.3	14.3	13.3
休日・祝日にも保育を	23.8	17.2	47.6	73.3
保育料を税金の控除対象に	41.9	41.4	38.1	13.3
いつでも入れるように	13.0	6.9	9.5	13.3
子どもが軽い病気の時には預かってほしい	29.2	31.0	47.6	46.7
在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように	17.0	24.1	14.3	0
育児相談や育児に関する情報を提供してほしい	8.7	3.4	0	6.1
保育所の閉園時間をもっと遅く	8.7	3.4	14.3	46.7
保育所の開所時間をもっと早く	2.9	6.9	4.8	0
保育所が近所にほしい	2.2	0	4.8	0
母親の苦労を保育士さんがもっと理解を	4.0	3.4	9.5	13.3
小学生を放課後、一定時間受入れてほしい	18.4	31.0	28.6	6.7
入園定員を増加	1.4	6.9	4.8	0
保育所の施設を改善	13.4	24.1	4.8	13.3
保育の内容を充実	11.2	10.3	9.5	6.7
保育所での子どもの様子をもっと教えてほしい	32.1	24.1	23.8	53.3
働いていなくても預けられるように	24.9	17.2	9.5	6.7
障害児の受入れ	4.0	6.9	4.8	13.3
保育士の数を増やしてほしい	11.6	24.1	9.5	6.7
夜間にも利用できるように	5.4	6.9	23.8	20.0
給食を改善	1.4	0	4.8	0
保育所の保育や行事など、保護者の負担を少なく	11.2	3.4	4.8	13.3
その他	8.7	6.9	0	6.7

い。

家族従業の場合は、特定の傾向は見出しにくいですが、祝日や休日が必ずしも休みでないため、「休日・祝日にも保育を（34.4%）」などの要望が高い。さらに「在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように（21.9%）」などは、子育ての責任が大きく母親にかかりやすい状態が残されていることが推測される。これは表29に見られるように、夫の育児や家事に対する協力に対して、他の就労形態よりも満足度は低く、不満が高いことから示唆される。

4. 夫の育児や家事の協力に対する満足度

表27は全体のデータと、就労形態ごとにまとめたものである。常勤と家族従業には満足度に差がある。

表26 就業形態と保育所への要望

要 望 事 項	就 業 形 態 () は 実 数		
	常 勤 (149)	パ ー ト (134)	家 族 従 業 (32)
保育料を安く	79.2	63.4	43.8
入園の手続きを簡単に	25.5	36.6	31.2
産休明けにも入れるように	12.1	14.2	6.3
休日・祝日にも保育を	22.1	29.9	34.4
保育料を税金の控除対象に	51.7	28.4	46.9
いつでも入れるように	8.1	17.2	6.3
子どもが軽い病気の時には預かってほしい	39.6	27.6	9.4
在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように	8.7	22.4	21.9
育児相談や育児に関する情報を提供してほしい	6.7	9.7	0
保育所の閉園時間をもっと遅く	11.4	9.0	3.1
保育所の開所時間をもっと早く	4.7	1.5	0
保育所が近所にほしい	1.3	2.2	0
母親の苦労を保育士さんがもっと理解を	4.7	3.0	3.1
小学生を放課後、一定時間受入れてほしい	26.2	15.7	9.4
入園定員を増加	2.7	1.5	3.1
保育所の施設を改善	14.8	12.7	15.6
保育の内容を充実	14.1	8.2	9.4
保育所での子どもの様子をもっと教えてほしい	30.2	32.8	34.4
働いていなくても預けられるように	11.4	35.8	6.3
障害児の受入れ	6.0	3.7	3.1
保育士の数を増やしてほしい	15.4	9.7	21.9
夜間にも利用できるように	6.7	6.7	15.6
給食を改善	0.7	0.7	6.3
保育所の保育や行事など、保護者の負担を少なく	10.7	11.9	6.3
その他	7.4	9.0	9.4

就労形態による差には、夫婦の勤務時間や家計への貢献度の違いという要因が絡んでくる。常勤の場合は、家計を支えると言う意味で対等な立場で家事や育児の分担を話し合えるが、パートの場合は母親の方が妥協することが多くなる。さらに家族従業となると、夫の勤務時間の長さが母親への負担を増大させている。

表28は家族構成別に見たものであるが、夫婦と子どもだけの家庭と親族が同居している場合では、明らかに夫の育児・家事に対する貢献度が異なっている。これは親族と同居することで父親が育児や家事に関わる機会を無くしているという結果を生み出しているのではないかと示唆される。結局、核家族の中で夫しか協力できない状況がパートナーとしての夫を作り上げていくことになるのかもしれない。

さらに表29では年齢ごとに夫への満足度を分類したものであるが、母親が20歳代の場合、おそらく夫

表27 夫の育児や家事の協力に対する満足度

夫への満足度	全体		厚生省人口問題研究所「第1回全国家庭動向調査93年」		就業形態 () は実数					
					常勤 (154)		パート (161)		家族従業 (46)	
満足している	22.2	63.5	9.8	57.8	24.7	66.9	21.7	60.2	15.2	56.3
まあまあ満足している	23.0		48.0		24.0		19.9		23.9	
どちらかといえば満足している	18.3				18.2		18.6		17.2	
どちらともいえない、わからない	5.4				4.5		6.2		6.5	
どちらかといえば不満である	15.8	31.1		42.2	13.0	28.6	16.8	23.6	23.9	36.9
少し不満	6.2		30.9		7.8		6.2		6.5	
不満である	9.1		11.3		7.8		10.6		6.5	

表28 夫の育児や家事の協力に対する満足度と家族構成

夫への満足度	夫婦と子ども (357)		夫婦と子どもと親族 (36)	
満足している	23.2	64.6	11.1	52.7
まあまあ満足している	23.2		22.2	
どちらかといえば満足している	18.2		19.4	
どちらともいえない、わからない	5.0		8.3	
どちらかといえば不満である	16.0	15.9	16.7	38.9
少し不満	5.3		13.9	
不満である	9.0		8.3	

表29 妻の年齢と夫の育児や家事の協力に対する満足度

夫への満足度	年齢 () は実数					
	20代 (108)		30代 (239)		40代 (53)	
満足している	25.0	57.7	22.2	66.9	15.1	56.6
まあまあ満足している	17.9		25.9		18.9	
どちらかといえば満足している	14.8		18.8		22.6	
どちらともいえない、わからない	5.6		5.0		7.5	
どちらかといえば不満である	15.7	37.0	14.6	28.0	22.6	35.8
少し不満	11.1		4.2		5.7	
不満である	10.2		9.2		7.5	

自身も若く、子育てに関する知識も少なく、また自分の仕事に適応することに追われてしまうため、不満の程度が上がるのであろう。30歳代は子どもの数が増えるために関わらざるを得ない状況が出てくると同時に、子どもも成長することで関わり方も変化し、また父親としての自覚を促されるような生活変化がでてくる。40歳代になると、子どもが大きくなり、子どもの世話がある程度手がかかなくなると、家庭から離れていく傾向が見られる。このような傾向は世代・時代の影響を受けることが十分考えられ

るため、果たして一般的な傾向としてとらえることができるかどうかについては明言できない。

5. 子育てに関連する意識

子育てに関する以下の質問(表30)に関する意識を調査した(「1. 強くそう思う」から「7. まったくそう思わない」の7段階調査)。調査項目のうち子育ての意識と直接関連の無いものと、共通性の低い項目を除き再度因子分析を行った。

表31に因子分析の結果を示した。4つの因子が抽出され、第一因子は、育児の制約感、圧迫感、イライラなどの項目群で、因子の名称を「疲労感」、第二因子は、夫との協力関係を表していることから因子の名称を「パートナーシップ」、第三因子は、子ども自身の性格やしつけや教育に関する不安を表しており「しつけ不安」、第四因子は、育児に対する肯定的な感覚を表しており、「充実感」、第五因子は母子関係の情緒的な結びつきの無さや子どもへの否定的感情を含んでおり、「相性の不一致感」と名づけた。

表32は因子間の偏相関を示したものである。育児疲労感(いろいろ、制約感、圧迫感など)はしつけ不安、充実感、相性の不一致感などと関連があることが明らかにされた。特に、パートナーシップは育児の充実感と相関があり、夫の協力は子育ての楽しさや高い価値を感じる要因の一つになっていることが推測される。

子どもがなつかない、あるいは性格が合わないなど子どもとの心のふれあいがうまく行かないと感じる相性の不一致感は、育児疲労、しつけ不安、充実感と有意な相関を示した。このようないわば「扱い

表30 子育ての意識調査項目

[質問]	
(1) 自分の時間を子どもに取られてしまう	(18) 育児は有意義な仕事である
(2) 子どもの成長が楽しみである	(19) 親族などの周囲の干渉がわずらわしい
(3) 育児やしつけなどの自信がない	(20) 育児ノイローゼになる心境に共感できる
(4) 子どもの健康や体力に不安	(21) 住宅が狭いなど住居環境に悩んでいる
(5) 育児以外に楽しみや趣味を持ちたい	(22) 子どもが自分になつかない
(6) 育児は楽しい	(23) 育児のことで気軽に相談できる人がいる
(7) なんとなくいらいらする	(24) 自分一人で子どもを育てているのだという圧力感を感じてしまう
(8) 子どもを育てるためにがまんばかりしている思う	(25) 毎日毎日同じことの繰り返ししかしていないと思う
(9) なかなか気分転換ができない	(26) 子どものことについてよく夫婦で話し合う
(10) 子どもの生活態度や性格が心配	(27) 保育所にいくのを嫌がる
(11) 子どもを持って自分も成長した	(28) 地域の環境が教育に良くない
(12) 育児は身体が疲れる	(29) 子どもとふれあう時間が少ない
(13) 自分の生きがいは育児だけではない	(30) 夫は家事に協力的である
(14) 養育費に悩んでいる	(31) 子育ての情報が少ない
(15) 夫は、一緒に育児をしてくれている	(32) 充実感がある
(16) 育児は母親の責任が一番大きい	
(17) 子どもの性格が自分と合わない	

表31 バリマックス回転後の因子負荷量

変 数 名	因 子 名	変 数 名	因 子 名
第一因子 (累積寄与率 0.125)	疲労感	第三因子 (累積寄与率 0.336)	しつけ不安
自分の時間を子どもに取られてしまう	0.672592	子どもの生活態度や性格が心配	0.622623
子どもを育てるためにがまんばかりしている思う	0.665973	子どもの健康や体力に不安	0.586987
なかなか気分転換ができない	0.550332	育児やしつけなどの自信がない	0.568415
育児は身体が疲れる	0.513312	第四因子 (累積寄与率 0.409)	充実感
なんとなくいらいらする	0.489771	充実感がある	0.598244
育児ノイローゼになる心境に共感できる	0.467118	育児は有意義な仕事である	0.489405
毎日毎日同じことの繰り返ししかしていない思う	0.415563	育児は楽しい	0.462004
第二因子 (累積寄与率 0.225)	パートナーシップ	第五因子 (累積寄与率 0.459)	相性の不一致感
夫は、一緒に育児をしてくれている	0.849011	子どもが自分になつかない	0.694069
夫は家事に協力的である	0.791849	子どもの性格が自分と合わない	0.575945
子どものことについてよく夫婦で話し合う	0.785659		
自分一人で子どもを育てているのだという圧力感を感じてしまう	-0.473886		

表32 因子間の偏相関

因 子	育 児 疲 労	パ ー ト ナ ー シ ッ プ	し つ け 不 安	充 実 感	相 性 の 不 一 致 感
育児疲労	1.00				
パートナーシップ	-0.083	1.00			
しつけ不安	** 0.364	0.00	1.00		
充実感	** -0.256	** 0.182	-0.042	1.00	
相性の不一致	** 0.135	-0.017	** 0.219	* -0.121	1.00

注：**は p < 0.01%, *は p < 0.05% で有意な相関を表す。

にくい子」は子育ての手応えのようなものを失わせる結果を生み出し、育児への否定的な感情を引き出す原因になると示唆される。

表33は5つの因子に含まれる項目を合計し、就労形態ごとにその平均値と標準偏差を示したものである。各因子において就労形態に有意差は認められなかった (p > 0.05)。小池 (1994) では「夫婦協力感」が、常勤とパートタイムで有意差が認められているが、本研究では支持されなかった。同様に各因子を家族構成ごとに比較したが、それについても有意差は認められなかった (表34)。

表33 就労形態と育児意識

就労形態		育児疲労	パートナーシップ	しつけ不安	充実感	相性の不一致感
常勤	人数	165	155	167	168	168
	平均	30.6	9.5	12.4	8.9	12.1
	標準偏差	7.63	4.26	3.71	2.77	1.79
パート	人数	169	154	171	171	171
	平均	29.8	9.7	12.7	8.8	12.1
	標準偏差	8.07	4.85	4.00	2.76	1.83
自営業	人数	23	21	23	23	23
	平均	30.6	11.5	13.0	8.3	11.6
	標準偏差	7.81	5.75	3.56	3.12	2.26
家族従業	人数	49	43	49	49	49
	平均	32.2	8.8	12.3	8.6	12.1
	標準偏差	6.98	4.63	3.70	2.23	1.74

表34 家族構成と育児意識

家族構成		育児疲労	パートナーシップ	しつけ不安	充実感	相性の不一致感
夫婦と子ども	人数	375	342	379	380	379
	平均	30.6	9.6	12.5	8.9	12.07
	標準偏差	7.84	4.61	3.86	2.71	1.88
母子家庭	人数	65	60	66	66	67
	平均	29.8	10.1	13.3	8.6	12.5
	標準偏差	8.16	4.98	3.59	2.77	1.38

考察と結論

この報告では回答者を母親に限定して分析を行った。対象者の特徴として、20歳代が30%、30歳代が60%、75%が核家族であり、子どもの数は40%が2人であった。同じ保育所に通園する兄弟（2人）が30%もいる。

出身地は、大島出身者が80%近くを占め、県外・県内がそれぞれ10%となっている。表7で明らかのように、出身地ごとに年齢構成を調べると県外出身者は20歳代が40%を占めるが、県内出身者は20%弱である。逆に30歳代が県内出身者は70%近くになるが、県外出身者では50%弱である。大島出身者の年齢構成はこの二つの出身者のちょうど中間である。さらに表8の家族構成と出身地でも核家族の割合は県内出身者が90%近くになっている。さらに就労形態でも出身地ごとに調査すると、常勤とパートタイムの割合が明らかに異なっている。県内出身者の71%が常勤であるが、大島出身者の場合は36%となっている。

このように出身地によって、年齢構成、家族構成、就労形態がかなり異なり、「地元」の持つ特別な何らかの意味を分析するにはかなり注意が必要であろう。子育てに関する問題で、大島出身つまり地元

であることが効果を持つのは表18の育児に関する相談相手の選択であろう。母親の出身地であれば自身自身の両親が身近に居住している可能性は高く、相談相手として選択されやすいと推測されたが、両親（夫婦の両親）を選択する割合はどの出身地の母親もほとんど同じ割合であった。むしろ地元の効果は、大島出身者は相談相手として友人・知人を選ぶ割合がかなり高いことから、身近にいる友人・知人が多いことのようにであった。

1. 育児環境の改善について

年齢と改善への要望については、特定の傾向は見出せなかった。育児休業の充実、育児手当の充実、労働時間の短縮、公共施設内の託児施設、さらに保育所の充実などの要望がどの年齢でも高い。また夫の勤務体制や、家事の分担なども年齢を問わず20%を超える要望がある。

家族構成と育児環境の改善では、育児休業や労働時間の短縮は夫婦と子どもの家庭では高い要望があるが、母子家庭では働き手は母親一人であり、その母親が育児休業をとったり勤務時間を短縮することは不可能に近い。むしろ職場の保育施設や相談機関の充実が求められている。親族と同居している場合、特に祖父母がまだ勤労者である場合と、そうでない場合とではかなり子育ての状況は異なるであろう。また育児の協力者としてアテにできるかどうかとも問題である。従って親族と同居家族の特徴をこの結果から直接推測することはできないが、母親と子どもだけの母子家庭に比べると、やはり同居者の影響を見ることができる。例えば、育児休業の要望や、子育て機関の充実などは、育児に協力できる親族がいるかどうかの影響する。

多少気になる結果として、「近隣同士で、子育てを助け合うような関係」を要望する割合は母子家庭では夫婦と子どもの家庭の半分以下である。これは孤立しやすい状況を作っているのではないか。

就労形態別の要望事項を見ると、その就労形態特有の要望事項があるようである。常勤ならば労働時間の短縮であり、育児休業の充実、職場の保育施設の充実、さらには父親の勤務体制や家事の応分な負担などが上げられている。パートタイマーでは、常勤と類似した要望となっているが、子育て相談機関の充実や出産・育児の情報を得やすくなるなどの要望が特徴的であり、夫への期待が少ない点も注目される（「父親が子育てできる勤務体制、夫の応分な家事分担」などは常勤と比べて少ない）。住宅や生活環境の改善の要望については理由ははっきりしない。家業では、夫の家事分担の要望がかなり高く、この点はパートタイマーと異なっている。逆に類似した点は育児に関する情報や相談についての要望が常勤より多いと言う結果が出ている。

2. 子育ての相談相手として誰を選ぶか

表17では、全体としては知人・友人が72.5%と一番高く、夫が68.9%となっているが、母子家庭を除くと表22で示したように、夫と夫婦と子どもの家庭で81.6%、友人・知人が73.3%であり親族と同居している場合でも相談相手として夫が一番に選ばれている。表22の家族構成と相談相手の関係で、特に母親と子どもだけの母子家庭では、相談相手として友人・知人はやはり一番に選択されるが、2番目は「自分で考えて、相談しない」が53.7%と非常に高い。これは母子家庭でも親族と同居している場合も高い割合を示すが、両親が相談相手になりやすい点が異なっている。母子家庭が孤立しやすい状況であ

るが、それにもかかわらず保育士を相談相手に選択する割合は夫婦と子どもの家庭と比べても多くない。むしろやや少ないくらいである。前述したように、「近隣同士で、子育てを助け合うような関係」を要望する割合が、母子家庭では夫婦と子どもの家庭の半分であることから、子育て支援のための役割をになう保育所が母子家庭との関係をどう作っていくかが一つの課題ではないだろうか。

大島が出身地の母親の場合は、友人・知人を選択する割合は最も高く、県内・県外出身者は夫を選択する割合が一番高い。この結果は生活場所が地元である場合、友人・知人の存在が祖父母より重視されていることを意味している。

表19で、就労形態では常勤が保育士を相談相手に選ぶ割合が高いが、県内出身者に常勤が多いことから、母親の就労形態を常勤の場合に限って、出身地ごとに相談相手を選ぶ割合を表20に示した。やはり同じ常勤でも県内出身者の方が保育士を相談相手に選ぶ割合が高い。地元でないことから友人・知人の役割を保育士が担っていると考えることも可能であろう。

保育所への要望は就業形態や、家族構成で異なり、ひとつの園で全てを解決することは難しいのではないかと考えられる。この要望はあくまでも保育所に現在通っている子どもがいる家庭の母親の要望であって、子育て支援の全てを調査しているものではない。また要望する内容について、その園がまだ実施していないだけであって他の園では問題にならないケースもあり、園ごとに個別に調査する必要がある。以上のような問題点があるが、子どもを預かることが可能なケースをできるだけたくさん増やしてほしいということは読み取れる。つまり「休日・祝日の開園、閉所時間を遅く、夜間保育、軽い病気の時は預かってほしい、親の緊急事態では在園児でなくても利用できるように、働いていなくても利用できるように、小学生も受け入れて」などの要望が多い。

3. 夫の家事、育児の協力について

夫の協力には63.5%が満足と答えている。ただ家族構成で親族と同居している家庭では核家族の夫と比べ満足度は低い。核家族や常勤の場合夫だけしか家事や育児を分担できる人間はいないことから、必然的に協体制ができるのではないと思われる。家族従業の場合はかなり満足度が低いですが、これは夫の勤務時間が長いことも一因と考えられるが、その原因ははっきりしない。

育児意識の調査では5つの因子が抽出された。パートナーシップは子育ての充実感と関連性があることが見出された。育児の疲労感、子どものしつけに不安がある(しつけ不安)、子どもとの相性の不一致などが関係することが推測された。5つの因子を就業形態と家族構成について比較したが、有意な差は見出されなかった。

今後は今回の調査をもとに、調査対象地域を広げ、過疎地や離島の育児環境や母親の育児意識の共通した特徴を見出すと共に、その地域独自の問題を調査する必要がある。

引用文献

- 鹿児島市子育て支援計画 1998 鹿児島市福祉事務所児童家庭課
国民生活選好度調査 1993 経済企画庁

児童環境調査 1995 厚生省児童家庭局

杉山隆一 1991 乳児を持つ家族の生活と子育ての実態調査（大坂の就学前の子どもと家庭に関する実態調査）保育白書 草土社

女性の暮らしと仕事に関する世論調査 1995 内閣総理大臣官房広報室

野々村千恵子・林 秀雄・仲野悦子・除銀河・李京姫・金珉希・任貞美 1998 岐阜市とソウル市の子育てに関する調査

鹿児島島の男女の意識に関する調査 1995 鹿児島県民福祉部

小池けい子 1994 現代日本の母性意識 発達, No.57, Vol.15, 51-58 ミネルヴァ

資 料

アンケート用紙

問1. 回答していただいた方はどなたですか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 母親
2. 父親
3. その他

問2. あなたの年齢についてお尋ねします。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 10歳代
2. 20歳代
3. 30歳代
4. 40歳代
5. 50歳代以上

問3. 家族の構成についてお尋ねします。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 夫婦と子ども（単身赴任を含みます）
2. 夫婦と子どもと親族（祖父母、兄弟、などの親戚にあたる方）
3. 夫婦と子どもと非親族
4. 母親または父親と、子ども
5. 母親または父親と、子どもと親族（祖父母、兄弟、などの親戚にあたる方）
6. 母親または父親と、子どもと非親族
7. その他

問4. 子どもさんは何人ですか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人

5. 5人以上

問5. 保育園に通っていらっしゃるお子さんは、何人ですか。また何番目で何歳ですか。

1. 1人 (番目 歳)
2. 2人 (番目 歳)と(番目 歳)
3. 3人 (番目 歳)と(番目 歳)と(番目 歳)
4. 4人以上 下から3人までお書き下さい
(番目 歳)と(番目 歳)と(番目 歳)

問6. あなたのお生まれはどちらですか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 鹿児島 県外
2. 鹿児島 県内;奄美大島(本島:名瀬市,笠利町,龍郷町,大和村,住用村,宇検村,瀬戸内町)
3. 鹿児島 県内;奄美大島(本島)以外

問7. あなたの現在の仕事についてお尋ねします。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 常勤の勤務(正規職員,ただし家業の場合は「5」に○をしてください)
2. パートタイム勤務(非正規職員で,臨時・派遣職員・アルバイトなど不定期,あるいは特定の時期だけの勤務などを含みます)
3. 自営業(あなたが経営しているもの)
4. 自由業
5. 家族従業(農林水漁業,自営業,自由業など,家業に従事あるいは手伝い)
6. 内職
7. 無職

問8. 現在あなたが働いている理由はどのような理由からでしょうか。当てはまる所の番号をすべて○で囲んで下さい。(いくつ選んでもかまいません)。

1. 家計費の足しにするため
2. 自分で自由に使えるお金を得るため
3. 生計を維持するため
4. 将来に備えて貯蓄するため
5. 生きがいを得るため
6. 視野を広げたり,友人を得るため
7. 仕事をするのが好きだから
8. 家業であるから
9. 自分の能力・技術・資格をいかすため
10. 働くのがあたりまえだから
11. 時間的に余裕があるから
12. 社会に貢献するため
13. いったん退職すると,今と同じ条件での再就職が難しいから
14. 回りの人が働いているから

15. その他
16. 特に理由はない
17. わからない

問9. あなたは、日頃の生活の中で、何か悩みや不安を感じていらっしゃいますか。それとも感じていませんか。当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 悩みや不安を感じている
2. わからない・どちらとも言えない
3. 悩みや不安を感じていない

問10. 問9の「1」に丸を付けた方だけにお尋ねします。「2」または「3」と答えた方は次の「問11」の質問に移して下さい。

[質問] 悩みや不安を感じているのはどのようなことですか。当てはまる所の番号をすべて○で囲んで下さい。(いくつ選んでもかまいません)。

1. 自分の健康について
2. 家族の健康について
3. 老後の生活設計について
4. 今後の生活費や資産の見通しについて
5. 家族の生活について(育児, 教育, 進学, 就職, 結婚など)
6. 家業や事業の経営について
7. 自分の生活について(教育, 就職, 結婚など)
8. 現在の収入や資産について
9. 近隣・地域の人間関係について
10. 家族・親族間の人間関係について
11. 勤務先での仕事や人間関係について
12. 子育てと仕事等の両立
13. 住んでいる場所や地域の環境について
14. その他

問11. あなたは、保育園に通っていらっしゃる子どもさんの育児や、それに関わることについて、どのように感じていらっしゃいますか。

以下の質問についてそれぞれ、次の7つの段階の基準で、あてはまる段階(質問の後の1~7)に○を付けて下さい。2人以上上じもさんがいらっしゃる場合には、それぞれの子どもさんに対して感じ方が違う場合もあると思いますが、共通した、あるいは総じた感じでご判断ください。

<段階の目安>

- 1 強くそう思う, 2 そう思う, 3 どちらかといえばそう思う, 4 どちらともいえない・わからない, 5 どちらかといえばそう思わない, 6 そう思わない, 7 まったくそう思わない

[質問]

[段階]

- (1) 自分の時間を子どもに取られてしまう

1 2 3 4 5 6 7

(2) 子どもの成長が楽しみである	1	2	3	4	5	6	7
(3) 育児やしつけなどの自信がない	1	2	3	4	5	6	7
(4) 子どもの健康や体力に不安	1	2	3	4	5	6	7
(5) 育児以外に楽しみや趣味を持ちたい	1	2	3	4	5	6	7
(6) 育児は楽しい	1	2	3	4	5	6	7
(7) なんとなくいらいらする	1	2	3	4	5	6	7
(8) 子どもを育てるためにがまんばかりしている思う	1	2	3	4	5	6	7
(9) なかなか気分転がができない	1	2	3	4	5	6	7
(10) 子どもの生活態度や性格が心配	1	2	3	4	5	6	7
(11) 子どもを持って自分も成長した	1	2	3	4	5	6	7
(12) 育児は身体が疲れる	1	2	3	4	5	6	7
(13) 自分の生きがいは育児だけではない	1	2	3	4	5	6	7
(14) 養育費に悩んでいる	1	2	3	4	5	6	7
(15) 夫は、一緒に育児をしてくれている	1	2	3	4	5	6	7
(16) 育児は母親の責任が一番大きい	1	2	3	4	5	6	7
(17) 子どもの性格が自分と合わない	1	2	3	4	5	6	7
(18) 育児は有意義な仕事である	1	2	3	4	5	6	7
(19) 親族などの周囲の干渉がわずらわしい	1	2	3	4	5	6	7
(20) 育児ノイローゼになる心境に共感できる	1	2	3	4	5	6	7
(21) 住宅が狭いなど住居環境に悩んでいる	1	2	3	4	5	6	7
(22) 子どもが自分になつかない	1	2	3	4	5	6	7
(23) 育児のことで気軽に相談できる人がいる	1	2	3	4	5	6	7
(24) 自分一人で子どもを育てているのだという圧力感を感じてしまう	1	2	3	4	5	6	7
(25) 毎日毎日同じことの繰り返ししかしていない思う	1	2	3	4	5	6	7
(26) 子どものことについてよく夫婦で話し合う	1	2	3	4	5	6	7
(27) 保育園にいくのを嫌がる	1	2	3	4	5	6	7
(28) 地域の環境が教育に良くない	1	2	3	4	5	6	7
(29) 子どもとふれあう時間が少ない	1	2	3	4	5	6	7
(30) 夫は家事に協力的である	1	2	3	4	5	6	7
(31) 子育ての情報が少ない	1	2	3	4	5	6	7
(32) 充実感がある	1	2	3	4	5	6	7

問12. あなたの子育てをしやすくするためには、どのような制度や環境を整えてほしいですか。4つまで選んで、当てはまる所の番号を○で囲んでください。

1. 育児休業の充実 (取りやすい, 賃金の保障, 休業前と前と同様の現場復帰など)
2. 労働時間の短縮 (自分の, あるいは夫の)
3. 出産費用の補助

4. 育児手当の充実
5. 保育園の充実（利用しやすい、保育内容の充実など）
6. 職場の保育施設を設置あるいは充実
7. 公共施設内の託児室の設置や充実
8. ベビーシッターの普及
9. 近隣同士で、子育てを助け合うような関係
10. 子育ての相談機関の充実
11. 父親が子育てできるような勤務体制
12. 夫の応分な家事負担
13. 住宅や生活環境の改善
14. 近隣の自然環境の改善
15. 出産・育児情報を得やすく
16. その他
17. わからない

問13. 子育てで困った時などがある時、どなたに（どこに）相談しますか。あるいは参考にする情報をどこから得ますか。4つまで選んで、当てはまる所の番号を○で囲んでください。

1. 相談せず、自分でよく考えて解決に努力することが多い
2. 夫
3. あなた又は夫の両親（祖父母）
4. 親戚の人（祖父母、以外）
5. 保育園の保母
6. 友人・知人
7. かかりつけの医師
8. 保健所の保健婦
9. テレビ・ラジオ・雑誌の相談コーナー
10. 育児書・育児雑誌などの図書
11. 家庭教育に関する学級・講演・講座
12. 特に何もしない
13. その他；差し支えなければ、下にお書きください

()

問14. 保育園に対する要望がありますか。当てはまる所の番号を○で囲んでください。

1. ある
2. ない
3. わからない

問15. 問14で1の「ある」と答えた方にお尋ねします。その他の方は「問16」に進んで下さい。

[質問] 保育園を利用しやすくするために、保育園や保育の制度などに関して、どのような要望がありますか。6つまで選んで、当てはまる所の番号を○で囲んで下さい。

1. 保育料を安く

2. 入園の手続きを簡単に
3. 産休明けにも入れるように (0歳児でも入れるように)
4. 休日・祝日にも保育を
5. 保育料を税金の控除対象に
6. いつでも入れるように
7. 子どもが軽い病気の時には預かってほしい
8. 在園児でなくても、親が急病等などの時に、一時的に利用できるように
9. 育児相談や育児に関する情報を提供してほしい
10. 保育園の閉園時間をもっと遅く
11. 保育園の開所時間をもっと早く
12. 保育園が近所にほしい
13. 母親の苦労を保母さんがもっと理解を
14. 小学生を放課後、一定時間受入れてほしい
15. 入園定員を増加
16. 保育園の施設を改善
17. 保育の内容を充実
18. 保育園での子どもの様子をもっと教えてほしい
19. 働いてなくても預けられるように
20. 障害児の受入れ
21. 保母の数を増やしてほしい
22. 夜間にも利用できるように
23. 給食を改善
24. 保育園の保育や行事などで、保護者の負担を少なく
25. その他 ; 差し支えなければ下にお書き下さい

()

問16. 配偶者 (夫) のいらっしゃる方にお尋ねします。

あなたは夫の育児や家事の協力に対してどの程度満足していらっしゃいますか。当てはまる所の番号をひとつだけ選んで○で囲んで下さい。

1. 満足している
2. まあまあ満足している
3. どちらかといえば満足している
4. どちらともいえない。わからない
5. どちらかといえば不満である
6. 少し不満
7. 不満である

以上です。ご協力ありがとうございました。